

平成二十九年度秋田県立本荘高等学校入学式 式辞

霊峰鳥海は春の陽光に純白のその雄姿を一層際立たせ、子吉川のたおやかな流れはゆったりと春の訪れを告げます。どんなに変化の激しい時代にあっても、悠久の自然は今年もまた、希望に満ちた春を巡らせました。

今日の佳き日に、

同窓会長 村岡 兼幸 様、

由利本荘市長 長谷部 誠 様、

由利地域振興局長 志田 隆善 様 をはじめ、

多くの御来賓の皆様と保護者の方々の御臨席を賜り、

平成二十九年度秋田県立本荘高等学校入学式を挙行できますことを、心からお礼申し上げます。

ただ今、本校の入学を許可されました全日制課程240名、定時制課程14名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本校は、明治35年創立の旧制本荘中学校を前身とし、今年度で創立115年を迎える歴史と伝統を誇る学校です。これまで全日制と定時制を併せ、卒業生は3万人近くにのぼり、ふるさと秋田はもちろん、国内外で活躍する人材を数多く輩出してきました。文と武の両方を重んじる「右文尚武」、飾り気がなく、強く健やかな「質実剛健」、優れた者同士が切磋琢磨し人格を高め合う「玲瓏同氣」の三つを校訓とし、長い歴史と時間の中で本校の校風が作られてきました。

今年度の本校の教育方針は、「教育活動全体を通じて、未来を切り拓く人間力や社会に貢献する人材を育成する」、「キャリア教育の充実の下、志高く自ら自己実現を果たそうとする態度を育成する」の二つです。「未来」には、生徒一人ひとりの未来、ここ由利本荘市、にかほ市の未来、ふるさと秋田の未来、そして二十一世紀という未来、という意味が込められています。「自己実現」は、単に就職・進学できればよいという態度ではなく、変化の激しいこれからの時代に主体的に向き合い、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるという意味が込められています。

現代は、科学技術が飛躍的に進歩し、世界中の出来事を瞬時に知ることができ、人々の活動は国境を越え、地球全体に広がっています。その一方、資源の枯渇、環境破壊、地域間格差、宗教対立など、人類全体の課題が複雑さと深刻さを増す現実にも直面しています。

新入生の皆さんがこれから生きていく二十一世紀は、グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、激動の世紀とされています。ニューヨーク市立大学大学院センター教授キャシー・デビットソンによれば、子どもたちの65%は、将来、今は存在していない職業に就くとし、オックスフォード大学准教授マイケル・オズボーンは、今後10年から20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高いとしています。また、2045年には人工知能が人類を越える「シンギュラリティ」に到達するという指摘もあります。

本校ではそのような激しい変動の時代をたくましく生き抜く力を養うため、教育活動のあらゆる場面で、生徒一人ひとりを「将来、自立し、さまざまな分野で活躍し、社会に貢献する人材」と見なして指導に当たって行きます。そこで、本校に入学する皆さんに三つのことをお話します。

一つ目は、将来の夢と具体的な目標を持ち、主体的に学んで欲しいということです。

現代は、若者が夢や希望を抱きにくい、閉塞感のぬぐえない時代だする見方もあります。しかしながら、将来の夢や目標は、今を生きる大きな推進力となり、夢を実現しようとする努力が人生を創っていくものです。夢を実現するために、「主体的に学ぶ」態度を身につけることです。生涯にわたって主体的に学び続け、多角的かつ重層的な視野を獲得し、自己の人生をしなやかに豊かなものにして欲しいと思います。

東日本大震災を経験した日本人は、〈ふつう〉の日常性のありがたさを深く認識するようになりました。〈ふつう〉に送れる日々の高校生活の尊さを忘れず、将来の夢や目標の実現に向けて着実に努力を積み重ねて欲しいと思います。

二つ目は、豊かな人間性を育てて欲しいということです。

多感な高校時代は、新しい自分、自立した自分の確立のため、さまざまな困難に遭遇する時期です。誰もが人知れず悩み苦しむ時があるものです。青春期の激しい心の揺らぎ、悩み、それは、感受性に響くすべてが新鮮に感じられる青春期の特権とも言え、実は、深い自己理解、広い人間観や社会への確かな視野を育むきっかけとなります。他の人の痛みがわかる思いやり、人としての誠実さ、挫折を乗り越えるやわらかさと強さ、新しいことを生み出す創造力等、豊かな人間性を身につける基盤となる高校時代を、ぜひ送って欲しいと思います。

三つ目は、よき友、よき師を得て欲しいということです。

歴史小説の作家である司馬遼太郎は、著書『21世紀に生きる君たちへ』の中で、「私が持っていないで、君たちが持っている大きなものがある。未来というものである。」とし、「私には幸い、この世にたくさんのすばらしい友人がいる。歴史の中にもいる。そこには、この世で求めがたいほどにすばらしい人たちがいて、私の日常をはげましたり、なぐさめたりしてくれるのである。」と記しています。歴史は未来のために学ぶということ、読書の魅力・価値ということのほかに、人生においてよき友を持つことの大切さを示唆しています。よき友、よき師をもつことは、人生のかけがえのない財産となります。人をやさしく受け入れる人は、人にやさしく受け入れられ、また、人を尊敬する人は、人から尊敬されます。縁あって同じ校舎で学ぶ皆さんは、個々の個性や多様性を尊重し、自らがよき友になって欲しいと思います。

保護者の皆様に申し上げます。これまでのさまざまな成長の過程を振り返った時、今日のお子様の晴れやかな姿に、感慨もひとしおのことと存じます。本当におめでとうございませう。

子どもたちは、これから、自立の道を歩み始めます。自分で考え、自らの責任で行動するたくましい若者に育つことは、保護者の皆様と私たち教職員の共通の願いです。保護者の皆様と学校が力を合わせ、お子様の教育に全力を傾けて参りたいと考えております。本校の教育活動に対する御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

御臨席を賜りました御来賓の皆様には、これまでの本校への御支援に改めて感謝申し上げます。本校教育活動の更なる充実と発展を目指して、教職員一同、誠心誠意、努力する覚悟でございます。今後とも、変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、新入生の皆さんが、今日の喜びを忘れず、心身とも健康で、充実した高校生活を送ることを心から期待して式辞といたします。

平成二十九年四月六日

秋田県立本荘高等学校 校長 今井智幸